

雉

雉はキジ目キジ科キジ属に分類される鳥で、日本の国鳥です。昔話の『桃太郎』で鬼退治の仲間として猿や犬と共に登場し、『万葉集』や『徒然草』など古典の和歌・随筆集でも詠まれている、古くから日本人との関わりが深い鳥です。

雉は尾の長いことが特徴で、通常、オスは全長80センチ、メスは全長60センチ程度で、鶏大の鳥です。日本では、本州・四国・九州に分布しています。オスは体が濃い緑色で、背に褐色の斑がある濃い茶色の部分があり、翼と尾羽は茶色です。

繁殖期になると、ハート型の赤い顔になり、「ケンケン」という鳴き声を上げてメスを求めます。鮮やかな色を持つオスと対照的に、メスは全体的に茶色で地味な色合いをしています。雉は定期的に長い距離を移動する渡り鳥ではなく、定住する留鳥です。通常、山地から平地の林、河川敷、農耕地域などの明るい草地に生息しており、主に植物性のものや昆虫などを食べます。飛ぶのは苦手ですが、走るのは速いです。繁殖期は4月から7月頃で、地上に窪みを作って巣とします。通常、6-12個の卵を産みますが、子育てはメスだけが行います。非繁殖期には雌雄別々に行動します。人間にはできない地震の初期微動を知覚できるため、「朝キジが鳴けば雨、地震が近づけば大声で鳴く」とあたかも予知能力を備えているように言われることがあります。

雉は1947年3月22日に国鳥として選ばれましたが、選定理由には、「メスは母性愛が強い」ことや「狩猟対象として最適で、肉が美味」などがあります。すなわち、国鳥に選ばれていながら、狩猟が許されているという、何とも哀れな鳥です。狩猟時期は11月中旬から12月中頃までとなります。雉は少なくとも平安時代から料理の食材として使用されており、雉鍋、雉飯、雉そばなどの伝統的な調理法があります。鶏肉に比べ、低脂肪、高タンパクでカロリーも低いです。雉が高貴な鳥として認められている証拠に、1984年に発行された日本の一万円紙幣D号券の裏面に

オスとメスの雉が^{えが}描かれていることが^あ挙げられます。また、雉に由来している^{ゆらい}諺も^{ことわざ}あります。例えば、「^{たと}頭隠して^{あたまかく}尻隠さず」は、^{しりかく}欠点の一部しか^{けってん}隠していないのに^{いちぶ}全部を^{ぜんぶ}隠したつもりでいる^{おろ}愚かさを^{あざけ}嘲る^{ことば}言葉ですが、^{くさ}草むらに隠れたつもりになった雉の様子に由来しているそうです。「雉も鳴か^うずば撃たれまい」は、雉は鳴かなければ^{いばしょ}居場所を^し知られず^う撃たれることもなかったの^いに^みという^{よけい}意味から、余計なことを言ったばかりに^{みずか}自ら^{わざわ}災いを^{まね}招いてしまうことのとえです。

日本では^{まいとし}毎年、5月10日から16日までの^{あいちょうしゅうかんしゅりょうきかんまえ}愛鳥週間や^{じき}狩猟期間前などの時期になると、^{たいりょう}大量の^{ようしよくきじ}養殖雉が^{ほうちょう}放鳥されます。養殖雉のほとんどが^{どうぶつ}動物や^{るい}ワシ類などに^{ほしよく}捕食されるらしく、これは^{ばしょ}放鳥場所に^{てきせつ}適切な^{せいそくかんきょう}生息環境が^{ととの}整っていないのが^{げんいん}原因のようです。古くから^{した}親しまれてきた雉はこれからも^{すえなが}末長く^{にんげん}人間と^{きょうそん}共存していくことを^{ねが}願います。